

神奈川県議会議員(茅ヶ崎市選出)



# くさか景子の

No. 60  
県議会報告  
2012.5

ちよっ

と よろしいですか!

と



## 新たな県津波浸水予想図できる 茅ヶ崎は最大 8mの波が 23 分後に到来

神奈川県は、新たに3月津波浸水予想図を発表。新予想図によると、茅ヶ崎での津波の規模が最も大きいのは、12の想定地震のうち、「元禄型関東地震と神縄・国府津—松田断層帯の連動地震」で、最大で高さ7.95m津波発生から23分後に到達の予想となっています。(下図参照)

さらに、相模川を遡り、中島地域では浸水が予想されます。現在進行中の相模川築堤工事に国の予算6億円がつきましたが、津波対策が急がれます。前回12月の予想では、浸水深が2~3m、134号線も超えない予想であっただけに早急な対策が求められます。

これを受けて、茅ヶ崎市では、6月に最新のハザードマップを作成、津波に備えた避難場所の位置や経路、時間などが盛り込まれます。

津波到達時間	津波の高さ
中海岸 59分	758cm
南湖 24分	531cm
柳島 23分	795cm

また、日本サーフィン連盟とライフセービング連盟では、津波の危険性が高い時にオレンジフラッグを掲げ、避難を促すという取り組みを始めました。市内約40店のサーフィンショップは海の近くに多く、津波警報・注意報発令中にこの旗を掲げます。

オレンジフラッグは津波の警戒を意味します。海やその近辺でオレンジ色のフラッグやシートが掲げられた時は、津波警報発令中です。速やかに高い建物に避難してください。という意味のステッカーを surf90 茅ヶ崎ライフセービングクラブで作成しました。



オレンジ色のステッカー

### 4月25日 県防災会議を傍聴！県地域防災計画を修正しました。

私が訴えていた防災会議への女性の登用が実現し、49人中5人が女性委員になり、女性の視点に配慮した避難対策や女性のニーズが反映される避難所の運営方針が盛り込まれました。3.11後の計画の見直しということで、傍聴者が大勢見守る中、津波避難、液状化、必要物資の供給、災害救援ボランティア、防災訓練などと、新たに「むやみに移動を開始しない」とする帰宅困難者対策も入り、多岐にわたる施策が強化され、今後市町と連携し、対策や事業を行なっていくこととなります。



## 子育ての社会化は進むか?! 国の「子ども・子育て新システム」

消費増税とセットで、国会に提出されている「子ども・子育て新システム関連 3 法案」は、子どもや子育て家庭を社会全体で支援するため、2015 年 7,000 億円の財源を充てる予定となっています。総合子ども園を創設し、幼保一体化を目標に、介護保険のように、子育ての社会化を目指します。

しかし、総合子ども園への移行に 3 年間かかり、待機児童の解消のためのスピード感がないこと市町村による保育の実施義務が変わり、認可保育所への補助金制度が廃止されること、幼稚園と保育園との確執が未だあること、子ども市場の拡大で営利企業が参画し、質の低下が懸念されるなど、課題が多くあります。

フランスやフィンランドなど、幼保一元化が進み、子育てを社会で支える仕組みが発達し、合計特殊出生率も上がっている国に追いつくためには、日本での福祉と教育がいつもぶつかりあう縦割り行政の弊害を無くし、子ども行政の一元化をすすめる必要があります。

さらに、民主党の公約であった子ども手当が、所得制限がつき、児童手当に改悪されてしまい、私は大変残念に思いますが、子ども手当が無駄なような議論が続く限り EU 諸国のような子育て支援は日本ではほど遠いと感じます。

いずれにしても、次代の社会を担う子どもの育ちを社会で支援できる制度が日本にも早くできることを期待します。



## くさか景子のほっとコラム

### 県から市に移管された柳島キャンプ場のオープン!

この4月から市営になった柳島キャンプ場は、宿泊棟を約1億円で新設、約100人が宿泊可能、木の香りが真新しく11月からのプレオープンに備えています。

さらに、トイレを水洗にしたり、キャンプ場から海へと通路を設けたりしましたが、今後は炊事場を直し、フェンスなど整備することで、新たな客層を期待しています。

テントサイト40張、保安林保護は県営と変わりありませんが、茅ヶ崎市環境基本計画におけるコア地域としても重要な場所です。ハマカキランなど希少植物の管理、自然環境保全のため利用者へのルール徹底や、隣の下処理場への津波避難階段設置などの防災対策など、オープンまで課題は残ります。H26年から有料での利用になる予定ですが、今後の利用には、慎重な対策が望まれます。



新しい宿泊棟